

令和8年度

運営に関する計画



令和8年4月16日

学校協議会資料

大阪市立塩草立葉小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、学校教育目標「共に学び、共に生きる子どもを育てる」～自分も人も大切にすることのもと、人権尊重を基盤とした教育活動を推進している。

統合から12年目。児童数は、統合時の241名から549名に急増している。中規模校になるにともない、さまざまな業務の見直しを進めていく必要がある。

また、増加している外国人児童や特別支援学級在籍児童への支援、多様性教育推進などを通じて、すべての子どもが健やかに成長するよう、全教育活動を通して取り組んでいる。

1 学力・学習状況について

- 全国学力・学習状況調査の結果から、算数科に関しては、2年間の研究(算数科)の取り組みが成果として表れ、平均正答率が60(全国58)と全国に比べて2ポイント上回った。国語科に関しては、65(全国66.8)と全国に比べて1.8ポイント下回った。特に、「書くこと」「読むこと」に関しては、全国とのポイントの開きが2ポイント以上ある。
- 大阪市学力経年調査においても、算数科に関しては各学年取り組みの成果が見られ、大阪市平均を大きく上回っている学年もあった。国語科に関しては、「読む」「書く」が大阪市平均以上または平均に近いポイントを取っている学年は、算数科の「記述」に関する結果が表れていたことより、「読む」「書く」は各教科にも影響してくることが考えられ、教科横断的な授業改善が必要である。

2 体力・運動能力、運動習慣について

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して肯定的な回答をした男子の割合は大阪市及び全国平均を4ポイント以上上回っていたが、女子の割合は、約4ポイント下回っていた。児童数増加に伴い、休み時間に運動場で遊ぶことが難しく、授業や休み時間の活動に制限があるが、授業改善やトップアスリート「夢・授業」の活用、地域・家庭と連携しながら、体育学習の工夫や体力づくりを推進していく。

3 学校生活について

- 不登校児童数は複数名在籍しており、理由も複雑多岐にわたる。また、要保護児童対策地域協議会登録児童は19名、区役所の子どもサポートネットと連携して見守っている児童は4名と、支援が必要な家庭を持つ児童が多く在籍している。その中でも、大阪市小学校学力経年調査の「学校に行くのは楽しい」という質問に対して肯定的な回答をする児童は83%いる。すべての児童が安心して学校生活を送れるよう、学校・地域・家庭が連携し継続したていねいな見取りが必要である。

4 教育環境・ICTについて

- 学習理解のためのツールの一つとしてタブレットを活用した授業は積極的に行われている。
- いじめの早期発見及び安心していつでも相談できるためのツールとして、「心の天気」「相談機能」等を活用していく。

中期目標(令和8年度から令和11年度までの4年間で達成をめざす成果目標)

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

- ①令和11年度全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%にする。 →R7は80.3%
- ②令和11年度全国学力・学習状況調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を80%にする。 →R7は68.8%
- ③令和11年度の校内調査における不登校の在籍比率を3%以下にする。
→R7は6.56% (549人中36人)
- ④令和11年度の大阪市小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができているか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%にする。
→R7は3年85.4%、4年90.5%、5年82.1%、6年89%
※参考質問17「去年と比べ自分に成長したところはあると思いますか。」
- ⑤令和11年度のいろいろな国や地域の文化や言葉のちがいを大切にし、困ったことや問題を解決するなどして、つながりを深めることができているか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%にする。
→R7は3年75.8%、4年74.3%、5年74.1%、6年68.5%
※参考質問60「学校や学級の中でいろいろな国の文化や言葉のちがいを出し合い、友達同士のつながりを深めることができているか。」

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 令和11年度全国学力・学習状況調査における国語の平均正答率の対全国比と同等にする。
→R7 65% (本校)、66.8% (全国)
- ②令和11年度全国学力・学習状況調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%にする。 →R7 72.5%
- ③令和11年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点の対全国比を男女ともに上回る。R7男子47.63%、女子45.85% ※全国R7男子53.02%、女子53.97%
- ④令和11年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を男女とも全国平均を上回る。 R7男子97.7%、女子81.4% ※全国R7男子93.4%、女子85.8%

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- ①令和11年度大阪市小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取り組みをしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
→R7は3年57.3%、4年67.6%、5年60.7%、6年61.6%
- ②令和11年度大阪市小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を80%以上にする。
→R7は27.4% (1日複数回+1日1回+週3回)
- ③令和11年度大阪市小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用するときに、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
→R7は3年75.7%、4年95.9%、5年85.4%、6年87.2%
- ④令和11年度末において「学校園における働き方改革アクションプラン」に基づき、時間外勤務時間について、年300時間を超えて実施する教員をゼロにする。 →R7 8人

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

- ①小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%にする。 →R7は80.3% ave.
- ②小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を80%にする。
→R7は68.8%
- ③年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
→R7は6.56%（549人中36人）
- ④小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%にする。
→R7は3年85.4%、4年90.5%、5年82.1%、6年89% ave：86.8%
※参考質問17「去年と比べ自分に成長したところはあると思いますか。」
- ⑤小学校学力経年調査における「いろいろな国や地域の文化や言葉のちがいを大切にし、困ったことや問題を解決するなどして、つながりを深めることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%にする。
→R7は3年75.8%、4年74.3%、5年74.1%、6年68.5% ave：73.2%
※参考質問60「学校や学級の中でいろいろな国の文化や言葉のちがいを出し合い、友達同士のつながりを深めることができますか。」

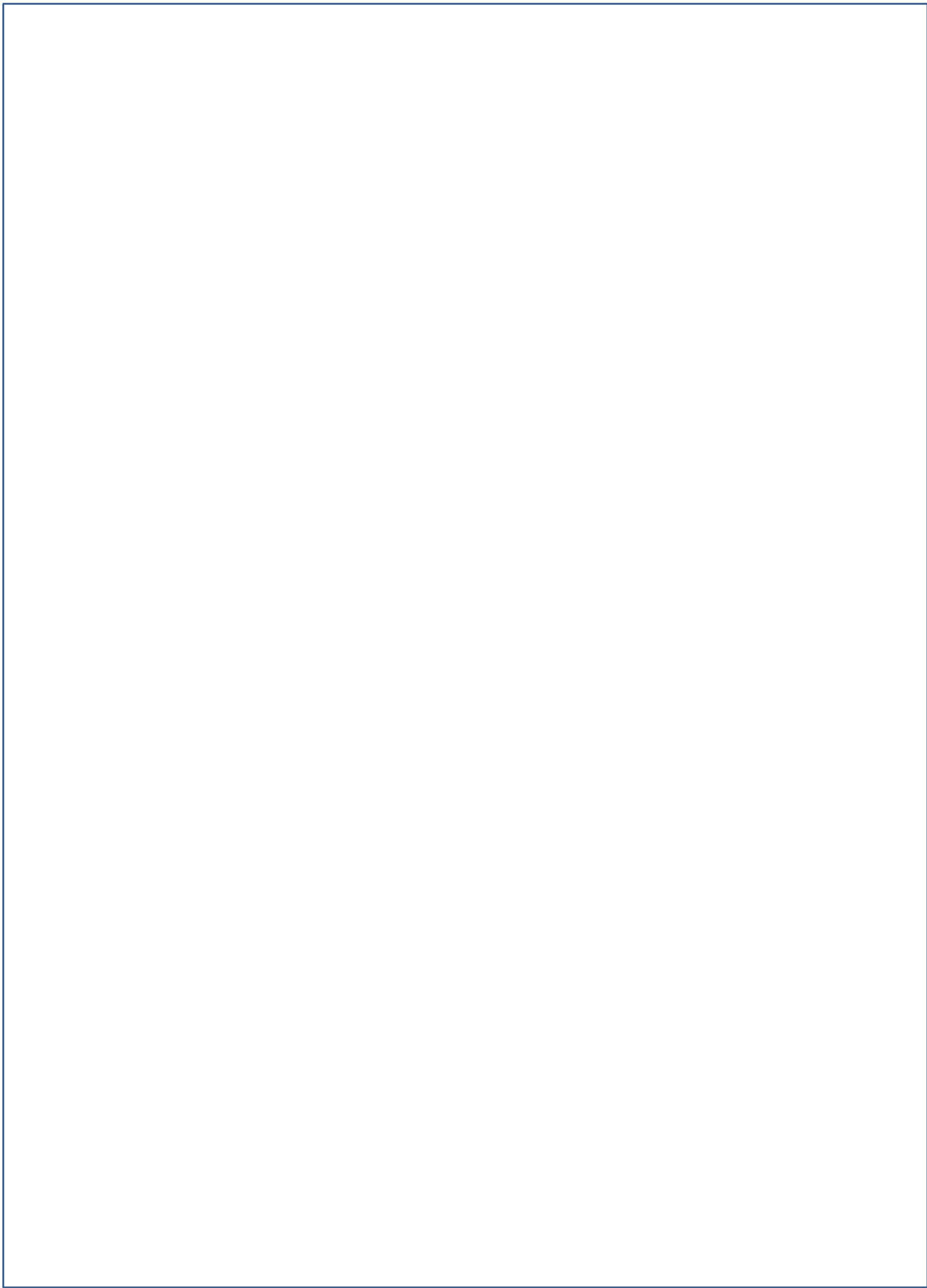
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ①小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も大阪市の平均を上回る。
→R7は3年0.95、4年1.05、5年1.02、6年0.93
- ②小学校学力経年調査における「学級の友達友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%にする。→R7 72.9%
- ③全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より向上させる。 →R7 男子47.63%、女子45.85 ※全国R7 男子53.02%、女子53.97%
- ④小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
→R7は84.5%

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- ①大阪市小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取り組みをしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。→R7は61.8%
- ②大阪市小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を50%以上にする。
→R7は27.4%（1日複数回+1日1回+週3回）
- ③大阪市小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用するときに、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。
→R7は86%
- ④「学校園における働き方改革アクションプラン」に基づき、時間外勤務時間について年300時間を超えて実施する教員を前年度より減らす。 →R7 8人

3 本年度の自己評価結果の総括



評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>①小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%にする。 →R7は80.3% ave.</p> <p>②小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を80%にする。 →R7は68.8%</p> <p>③年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 →R7は6.56% (549人中36人)</p> <p>④小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%にする。 →R7は3年85.4%、4年90.5%、5年82.1%、6年89% ave: 86.8% ※参考質問17「去年と比べ自分に成長したところはあると思いますか。」</p> <p>⑤小学校学力経年調査における「いろいろな国や地域の文化や言葉のちがいを大切に、困ったことや問題を解決するなどして、つながりを深めることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%にする。 →R7は3年75.8%、4年74.3%、5年74.1%、6年68.5% ave: 73.2% ※参考質問60「学校や学級の中でいろいろな国の文化や言葉のちがいを出し合い、友達同士のつながりを深めることができますか。」</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①・②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○児童の実態把握の充実化と児童の居場所づくりの推進する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に1回以上、心の天気を活用した児童の実態把握を行う。 ・職員会議後、児童の共有の場を設ける。 ・学期に1回以上、全学級でいじめの実態調査を行い、早期発見・解決を図る。 ・年に10回程度、たてわり班活動の実施する。 	
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○登校支援を必要とする児童に対して、組織的に解決・改善を図る。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回以上、登校支援が必要な児童の共有の場を設ける。 ・必要に応じて登校支援会議を行い、SCなど諸機関と連携して解決・改善を進める。 	

<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ○自分や友達を大切にする人権教育を推し進める。</p>	
<p>指標 ・『いじめ・いのちについて考える日』では視聴覚教材を用いた学習を5月に実施する。 ・7月に『人権・平和の学習』を実施する。 ・各学年こころとからだの学習を実施する。 ・人権教育実践交流会の実施・参加する。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ○多文化に触れ、互いの理解を深める多文化共生の取り組みを行う。</p>	
<p>指標 ・年度に1回以上、『様々な国の文化にふれよう』の学習を設定する。 ・学期に1回、国際クラブを実施する。 ・児童会活動で様々な国の文化を紹介する活動を実施する。</p>	
<p>年度目標や取組内容の達成状況の結果</p>	
<p>○年度目標 ○取組内容</p>	
<p>来年度への改善点</p>	
<p>○年度目標 ○取組内容</p>	

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学寮・体力の向上】</p> <p>①小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も大阪市の平均を上回る。 →R7は3年0.95、4年1.05、5年1.02、6年0.93</p> <p>②小学校学力経年調査における「学級の友達友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%にする。→R7 72.9%</p> <p>③全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より向上させる。 →R7 男子47.63%、女子45.85 ※全国R7 男子53.02%、女子53.97%</p> <p>④小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 →R7は84.5%</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○子どもの語彙力を高める取り組みを進める。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習に読書活動を週一回以上実施する。 ・漢字検定を3年生で実施する。 	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○多様な意見に触れることで、自分の視野を広げ、思いや考えを豊かに表現する子どもを育てる。</p> <p>○教員の指導力向上を進める。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動を一日1回以上実施する。 ・学習の振り返り活動を週2回以上実施する。 ・3年生以上、総合的読解力の学習の実施を1年に1単元以上実施する。 ・全教職員が1回以上公開授業を行う。 	

<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査に向けて、昼休みに講堂で練習期間を設定する。</p>	
<p>指標</p> <p>・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の合計点数を前年度より3%向上させる。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>○運動委員会が中心となり、「スポーツ週間」の取り組みを行う。</p>	
<p>指標</p> <p>・1学期に「体力テスト強化週間」を設け、体力テストをスムーズに行えるようにする。</p> <p>・2学期に「なわとび週間」を設けて、体力の向上を図る。</p>	
<p>年度目標や取組内容の達成状況の結果</p>	
<p>○年度目標</p> <p>○取組内容</p>	
<p>来年度への改善点</p>	
<p>○年度目標</p> <p>○取組内容</p>	

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>①大阪市小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取り組みをしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。 →R7は61.8%</p> <p>②大阪市小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を50%以上にする。 →R7は27.4%（1日複数回+1日1回+週3回）</p> <p>③大阪市小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用するときに、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。 →R7は86%</p> <p>④「学校園における働き方改革アクションプラン」に基づき、時間外勤務時間について年300時間を超えて実施する教員を前年度より減らす。→R7 8人</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①・②【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>○学習者用端末を活用する機会を設ける。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルドリルや発表ノート等を学習活動の中で活用する。 	
<p>取組内容③【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>○正しい情報活用能力やネットリテラシーを育成する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報モラル教育年間指導計画に基づき、情報モラル教育を全学年で年1回以上行う。 	
<p>取組内容④【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○業務の効率化を進める取り組みを行うとともに、長時間労働の解消を図る。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ゆとりの日を週1回以上設ける。 スクールサポートスタッフ等と連携して、事務作業やプリント作成等を行い、効率化を図る。 前期・後期において、教員の1ヶ月あたりの平均時間外勤務時間を月25時間以下とする。 案件などを事前に共有することで、会議の効率化を図る。 	

年度目標や取組内容の達成状況の結果	
○年度目標 ○取組内容	
来年度への改善点	
○年度目標 ○取組内容	